

昭和57年（1982年）3月

たもぎたけ種

(*Pleurotus cornucopiae* (Pers.) Rolland.)

審 査 基 準

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
遺 伝 的 特 性											
寒天培地による対峙培養											①供試培地はPSAとする。②常法で滅菌した供試培地をシャーレ（内径9cm、高さ2cm）に分注する。③供試培地で10～15日間、24～28℃で前培養した2核菌糸の薄片（5mm程度）を供試平面培地の中央部付近に3cm間隔に対峙させるように接種し、24～28℃で培養する。④両菌叢が接触したら、シャーレを照度300Lux以上の自然光下におき、24～28℃にたもち、帯線形成の有無、嫌触反応の程度、菌叢の濃淡差を判定する。
帯線形状			+				—			帯線の形成されたものは+、形成されないものは—とする。	
嫌触反応		無		弱		中		強			
菌叢の濃淡差		無		弱		中		強			
生 理 的 特 性											
菌糸の生長に関する温度特性											①供試培地はDifco PDA (Difco Laboratories, Detroit Michigan, USA) とする。②シャーレ（内径9cm 高さ2cm）またはライオンのグロースチューブ（1区5～7枚または本）に供試培地を分注し、常法により滅菌する。③この培地に、別に供試培地で10～15日間、24～28℃で培養した菌叢から取った2核菌糸の薄片（5mm程度）をシャーレまたはグロースチューブの一端に接種し、最適温度で培養する。④菌叢の直径が10mm（接種片を含む）程度に達したら、シャーレまたはグロースチューブを所定の温度に移し、1～2日後測定を開始する。
寒天培地の生長最適温度	18℃	20℃	22℃	24℃	26℃	28℃	30℃	32℃	34℃		
生長速度		mm/5℃	mm/10℃	mm/15℃	mm/20℃	mm/25℃	mm/30℃	mm/35℃		7日間の平均値を算定する。	

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
高温に対する耐性											とくに特徴のある場合に限る。
低温に対する耐性											とくに特徴のある場合に限る。
密 度		粗			普 通			密			
気中菌糸の発達程度		少ない			普 通			多 い			
栽 培 的 特 性											
											鋸屑栽培によるものとする。原木栽培で選択性のあるものについては、鋸屑栽培・原木栽培について調査する。 1. 鋸屑培地による瓶（ビン）栽培 ①供試容器は、ポリプロピレン（PP）培養瓶（丸型、容量800～1,000cc、口径50～60mm）を使用する。②供試培地は、ブナ材鋸屑（風乾した純度90%以上のもの）9：生米糠1（容積比）、含水率60～65%（標準）とする。③供試種菌は、鋸屑種菌を使用する。④供試培地は、高圧殺菌したのち、供試種菌を接種し、最適温度で明培養する。種菌の接種量は約20cc。 2. 原木による栽培 ①供試原木の樹種、太さ、長さ、接種方法、栽培条件などを調査する。②原木に鋸屑種菌をはさんで栽培する短木栽培、いわゆるサンドウィッチ方式についても、樹種、太さ、長さ、接種方法、栽培条件などを調査する。

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
種菌接種から子実体発生までの期間	20日以下	21～25日	26～30日	31～35日	36～40日	41～45日	46～50日	51日以上			鋸屑培地による瓶（ビン）栽培。 菌糸発育の最適温度で培養し、子実体発生操作も同一温度で実施する。
芽出し最適温度											鋸屑培地による（ビン）栽培。 とくに特徴のある場合に限る。
発生最盛期までの期間											原木による栽培。
子実体の発生温度											鋸屑培地による瓶（ビン）栽培。 とくに特徴のある場合に限る。
温度較差											
処理温度											
処理時間											
子実体の生長											
最適温度	18℃	20℃	22℃	24℃	26℃	28℃	30℃	32℃	34℃		鋸屑培地による瓶（ビン）栽培。
最適照度	50 lux 以下		51～100 lux		101～150 lux		151～200 lux		201 lux 以上		
子実体の発生型											
発生時期		早 生			中 生			晩 生			原木による栽培。
発生型	孤 生		散 生		叢 生		群 生		その他		鋸屑培地による瓶（ビン）栽培。 原木による栽培。

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
株の分岐程度		少ない			普 通			多 い			
収 量	100g 以下	101～ 110g	111～ 120g	121～ 130g	131～ 140g	141～ 150g	151～ 160g	161～ 170g	171g 以上	①収穫した2回分の 生重量を計量し、一 瓶（ビン）当たりの 平均値を算定する。 ②発生本数は不要。	鋸屑培地による瓶（ビン）栽培 ①供試瓶（ビン）数は、1ブロック 25本とし、3回試験を実施する。② 収穫時期は、株の中心部の子実体の 傘の直径が20～30mm程度に開いたと きとする。③生重量は、子実体の株 の基部に付着する培地を除去したの ち計量する。
培地材料に対する特異性											
樹種選択性		広葉樹			針葉樹			混 合			通常使用されている原木の樹種また は鋸屑の樹種以外のもので、とくに 選択性のある場合。
その他の培地材料に対する 選択性		わ ら			もみがら			その他			藁（わら）、籾殻（もみがら）、パ ルプ、その他の培地材料で、とくに 選択性のある場合。
形 態 的 特 性											
										株の中心部の子実体 の傘の直径20～30mm 程度のもの。	鋸屑培地による瓶（ビン）栽培。 代表的な株について調査する。
菌 傘											
形 態											

項 目	区 分								測 定 基 準	調 査 方 法
平 面		円 形			楕円形			扇 形		
断 面										
色										
生育初期		白 色	淡黄白色	淡黄色	黄 色	濃黄色	黄橙色	その他		
収穫期		白 色	淡黄白色	淡黄色	黄 色	濃黄色	黄橙色	その他		
肉 質		軟 い			普 通			硬 い		
菌 褶										
菌柄へのつき方									垂生の程度を軽、中、強に区分する。	
菌 柄										
菌傘へのつき方									中心性、偏心性に区分する。	
形									細長、細短、太長、太短に区分する。	
色			無 色				有 色			
毛			な い				あ る			
その他の形態										最大限に成長させた場合の子実体の傘の大きさ、その他について、とくに特徴のある場合。

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
含 有 成 分											
子実体の特殊成分含有量											

子実体の部分の名称と測定部位

